

# 第1学年 英語科学習指導案

日時 平成22年9月2日(木)4校時  
場所 葛巻町立江刈中学校 1年A組教室  
学級 1年A組(男8名, 女7名 計15名)  
指導者 教諭 杉本英樹

1 単元名 Unit5 ピクニックに行こう(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1)

## 2 単元について

### (1)教材について

本単元は、マイクと絵美がピクニックに行く、という設定である。ハンバーガーショップでのマイクと店員の注文の対話、公園へ向かう途中の絵美とマイクの音楽やCDを巡る対話と続き、お昼を食べるときにコーラをこぼしたマイクに絵美がハンカチを差し出すという場面を扱っている。数を尋ねる文とその応答や、提案・申し出・指示する文の表し方を理解し、表現できるようになることが本単元のねらいである。

ハンバーガーショップでの会話や友だちとのおしゃべりなど、生徒たちにとって身近で親しみやすい題材となっている。小道具などを準備して雰囲気を出し、楽しみながら対話ができるようにしたい。

ハンバーガーショップでの注文の対話は、複数形の導入に効果的であるだけでなく、実際に外国に行って買い物をするとき役に立つ表現である。1年の早い段階から「英語を使う」ことを生徒に意識させることができる題材となっている。

言語材料としては、文法事項として、名詞の複数形、数を尋ねる言い方、命令文を扱う。日本語では会話の中で複数形を意識することはないため、英語と日本語の違いを本単元を通して理解させていきたい。数を尋ねるHow many～?の文では、many のあとに名詞の複数形を置くということが定着しにくいことが予想される。Let's や命令文はこれまで学習した文とは異なり主語がない。いずれも言語活動や口頭練習、ワークブックなども使いながら繰り返し指導し、用法や意味の定着を図っていきたい。

### (2)生徒について

生徒たちは、全体的に明るく、まじめに学習に取り組み、ペア活動等でも男女の分け隔てなくよく協力して学習している。これまでの授業では、数詞については、日付や時刻のQ&Aの活動での様子を見ると、13と30の区別などあいまいな部分がある。授業中の英語の指示を聞いて作業をすることについては、よく反応できている。小グループでの話し合い後に発表する活動では、前単元でWhat is～?の表現を用いて、寸劇を作って発表する活動を意欲的に行っていたが、十分時間をかけて練り上げるまでには至っていない。

本単元では、金銭のやりとりの場面で対話がスムーズにできるように、既習の数詞を十分口頭で復習して備えたい。また、対話作りなどの場面で、小グループでの話し合いを取り入れて、気軽に教え合ったり、考えを分かち合うことで、どの生徒も表現の幅を広げられるようにしたい。

### (3)指導にあたって

本単元では、ペア活動を積極的に取り入れ、How many～?、Let's～. や命令文などの基礎的な知識や表現の定着を図りたい。その際、ピクチャーカードやワークシートなどを活用して生徒にわかりやすくしたり、できるだけ実際の状況に近い場を提供しながらロールプレイを行い、生徒に実感させるなどして、生徒にとってより実用的な言語活動になるような授業展開をめざしたい。

また、身近な話題を元にした対話作りなどで小グループの話し合いさせ、全体の場で交流し合う「学び合い」の場を設定することで、協力しながら、適切な表現を話したり書いたりできる力を伸ばしたい。

### 3. 単元の指導計画と評価計画

#### (1) 単元の目標

・名詞の複数形、数を尋ねる文とその応答、提案・申し出・指示する文の形・意味・用法を理解し、表現できる。

#### (2) 単元の評価規準

【関】	ハンバーガーショップでの注文のやりとり等の言語活動に積極的に取り組もうとする。
【表】	How many～？を使って数を尋ねる文とその応答の表現や、命令文などの表現を使って、聞き手がわかるように正しく話すことができる。
【理】	対話を聞いたり読んだりして、数や提案している内容を正しく理解することができる。
【知】	名詞の複数形、数を尋ねる文とその応答、提案・申し出・指示する文の形・意味・用法を理解している。

#### (3) 指導計画(評価計画含)

時	主な学習内容	評価規準			
		コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
1	Part 1「注文をしよう」 名詞の複数形の理解。教科書の本文の内容確認。			本文を読み、ハンバーガーショップでの注文の内容を理解できる。	名詞の複数形の意味・形・用法を理解できる。
2	ハンバーガーショップでの会話文の練習。	ハンバーガーショップでの買い物対話活動に積極的に取り組もうとしている。	注文をし、金銭のやりとりをすることができる。	品物の個数や金額を正しく聞き取ることかできる。	
3	Part 2「CDを何枚持っているの？」 How many～？の問答。教科書の本文の内容確認。			本文を読んで、マイクの絵美の対話の内容が理解できる。	数を尋ねる文の意味・形・用法を理解できる。
4 (本時)	How many～？の問答と対話作り、発表	数を尋ねる問答などの言語活動に積極的に取り組もうとしている。	相手が持っている物の数などを英語で正しく尋ねたり、答えたりできる。		
5	Part 3「提案・申し出・指示をしよう」 Let's～、命令文の練習		指示されたことがわかり、行動に移せたり、してもらいたいことを英語で表現したりできる。		提案・申し出・指示する文の形・意味・用法を理解している。
6	教科書の本文の内容(提案・申し出・指示)の理解			本文を読んで、マイクの絵美の対話の内容が理解できる。	
7	単元のまとめ		名詞の複数形を使って、数を尋ねたり、質問に答えたりする文を書くことができる。	英文を読んで、誘ったり、提案したりする文を理解できる。	本単元で学習した文や単語の意味を理解し、正しく書くことができる。

## 4 本時の学習

### (1) 目標

- ① 数を尋ねる問答などの言語活動に積極的に取り組もうとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ② 相手が持っている物の数などを英語で正しく尋ねたり、答えたりすることができる。【表現の能力】

### (2) 具体の評価規準

評価の観点	具体的な評価規準		
	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる	C: 「努力を要する」と判断された生徒への具体的な対応・手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	相手を見ながら対話しようとしている。	指示に従って英語を話そうとしている。	机間指導し、基本文などを個別に発音させる。
表現の能力	なめらかに質問したり、答えたりしている。	相手に伝わるように正しく話している。	再度基本文練習をさせ、ヒントを出して、文を作らせる。

### (3) 「学び合い」の3つの要素について

#### ① 作業的な学習

復習として、名詞の複数形、How many～?の基本文の練習をスモールステップで行う。その上で、物や生き物がそれぞれいくつか書いてある絵を使って、「何がいくつ見える？」というクイズを行い、楽しく練習させた。口頭で十分慣れたら、その一部を英文で書かせる。これが本時の対話文作りの準備となる。本文音読も含め、十分な復習と練習の後に、How many～?を活用した対話文作りに進ませたい。

#### ② 小グループでの話し合い

本時では、課題解決の場面で小グループでの対話文作りのために話し合いの場面を設定する。

対話文作りは、自分たちで話し合ったり、調べたりなどすることで、教科書の表現を発展させることができ、表現に十分慣れさせることができると考える。また、既習の基本文の問答を取り入れて、2文から4文、6文へと英文をつなぐことで、既習事項の定着を図ることができると考える。

対話文作りにおいては、How many のあとは、do you have? だけでなく、do you want? などの表現も例示する。生徒個々の表現の幅を広げさせるために、数を尋ねる物の種類も教科書より多めに用意したり、自分たちで調べて追加しても良いことにしていく。小グループの話し合いで、教え合いができ、また、お互いの考えを出させて、その良さを認め合わせるなどして、苦手意識のある生徒も意欲的に取り組めるよう配慮したい。

#### ③ 表現の共有と交流

小グループで学習した後、作った対話文をグループごとに練習・発表させる場面を設定し、本時の学習のまともにつなげていきたい。発表ごとに対話文の工夫点などを評価し、生徒たちが互いのよさを共有し、達成感を味わえるように配慮したい。

(4)展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)	
導入 10分	1 挨拶 Q&A  2 前時の復習(1) ・How many ~s ? (口頭練習)  3 前時の復習(2) ・クイズ「何がいくつ見える？」  4 学習課題の確認	1 ・曜日、日付、天気、時刻についてのQ&Aを行う。 2 ・How many ~s ? の表現について絵カードなどを使って口頭練習する。  3 ・絵を使って、クイズに口頭で答えさせ、その後、問答の英文を一組だけ、書かせて、書く復習とし、学習の意欲付けも図る。	【関】 数を尋ねる問答などの言語活動に積極的に取り組もうとしている。(観察)	
	<b>自分や友だちの持ち物やほしい物を尋ねる言い方を使えるようになろう。</b>			
展開 35分	5 教科書の本文音読  6 対話文作りの例示  7 対話文作り ・グループで考える。 ・グループで役割を決めて、練習する。  8 全体発表 ・作った対話文をグループごとに全体の前で発表する。  9 対話文のまとめ ・作った対話文をワークシートにまとめる。	作 5 ・教科書の本文音読の後、本文の特徴を少し考えさせ、対話作りのヒントにする。  6 ・教師が対話文の一例を示す。  グ 7 ・疑問文と答えの物の例を載せたワークシートを配布し、参考にさせる。 ・和英辞典を用意し、オリジナルな対話文を作ることができるようにしておく。  表 8 ・発表後、教師が評価し、各グループの長所と工夫を分かち合えるようにする。 ・時間があれば、4文から6文へと文をつないでいく対話文も作らせたい。  9 ・発表した対話文を元にして、新しく作ってもよいと指示する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>活用させたい知識・技能</b>  <b>How many ~s ? を</b> </div> 【表】相手が持っている物の数などを英語で正しく尋ねたり、答えたりできる。(観察・発表・ワークシート)	
	終末 5分	10 本時のまとめ  11 次時の予告	10 ・ワークシートに今日の学習の反省を書く。	

作…作業的な学習    グ…小グループでの話し合い    表…表現の共有と交流